

非典型的な臨床症状を呈した 高齢者の特発性十二指腸潰瘍

おお た りゅう いち いた くら だい すけ えん どう のぶ ゆき
太 田 龍 一¹⁾⁴⁾ 板 倉 大 輔²⁾ 遠 藤 信 幸²⁾
たつ むら たい じ はっ とり しゅう ぞう
辰 村 泰 治³⁾ 服 部 修 三⁴⁾

キーワード：十二指腸潰瘍，特発性潰瘍，H.pylori，心理的ストレス

要 旨

十二指腸潰瘍患者の多くが心窩部痛や胸焼けを主訴に受診することが多く、ヘリコバクターピロリ菌（H.pylori）感染やNSAIDsなどの使用歴があることが多い。今回、89歳男性の食欲不振のみを主訴にした十二指腸潰瘍の1例を経験した。患者はNSAIDsの使用歴はなく、H.pyloriは除菌済みであった。特発性十二指腸潰瘍と診断しプロトンポンプ阻害薬の点滴加療により軽快した。高齢者の食欲低下の原因としてはっきりとした誘因がない場合でも十二指腸潰瘍を鑑別に入れる必要があると考えられる。

はじめに

十二指腸潰瘍の一般的な症状として心窩部痛、胸焼け、悪心、嘔吐が知られており、80%にこれらの症状がみられる。当疾患を疑った際、二大病因である *Helicobacter pylori* と NSAIDs を念頭におき診療に当たる必要がある。またこれら以外の病因として、サイトメガロウイルスなどの感染症、ビスホスフォネートやクロピドグレルなどの薬剤性、酸分泌過剰状態を引き起こすホルモンやメディエーター、胃幽門部切除などの術後、心理

的要因などが知られている¹⁾。

今回、食欲不振と全身倦怠感のみを症状とする高齢者の十二指腸潰瘍の1例を経験した。当初は症状から副腎不全を疑い、ステロイド投与による治療を行っていたが、血便が見られたため内視鏡検査を行い、十二指腸潰瘍の診断、治療へと至った。食欲低下と全身倦怠感のみの症状から十二指腸潰瘍を鑑別診断にあげることは多くない。本症例を検討することを通して、一般的な症状を呈さない十二指腸潰瘍の診断について考察した。

症 例

89歳 男性

主訴：全身倦怠感，食欲不振

既往歴：ステロイド糖尿病，前立腺癌，高血圧症，

Ryuichi OHTA et al.

1) 雲南市立病院地域ケア科 2) 島根大学医学部医学科

3) 辰村医院 4) 雲南市立病院内科

連絡先：〒699-1221 雲南市大東町飯田96-1

雲南市立病院地域ケア科